



Tokyo Bunka Kaikan Opera BOX "Naita Aka Oni - The Red Ogre in Tears"

《PRのお仕事体験》に参加した高校生が、稽古の様子を撮影・取材し、実際に出演者にインタビューを行いました！



東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が実施するネクスト・クリエイション・プログラムの一環として、オペラ『泣いた赤おに』の公演を立川で上演します。地域の子どもたちが出演したり、舞台美術の一部を製作したりと、プロのアーティストと子どもたちが力を合わせて本格的なオペラを上演します。赤おに役はハマリ役で呼声高い宮里直樹さん、青おに役は活躍目覚ましい黒田祐貴さんが演じます！

今回は青おに役の黒田さんに、見どころなどを伺いました。

取材・文／松田麻那（PRのお仕事体験参加者・高校3年生） 監修／元村久美子（東京文化会館 広報担当）

松田：この作品のストーリーを教えてください。

黒田：とっても優しく人間のことが好きで、人間と仲良くなりたいている赤おにくんが山に住んでいました。「お菓子やお茶を用意しているから遊びに来てね」と言っても人間たちはみんな怖がって避けていってしまいます。赤おにくんが落ち込んでいるのを見かねた青おにくんが「僕が人間の村を襲って赤おにくんが助けに来たら人間たちは、赤おにくんはとてものいいおになんだ！と思って、人間たちとも仲よくできるよ」と言い、青おにくんが村を襲います。赤おにくんが助けたことで赤おにくんは人間とも仲よくなりました、めでたしめでたし。…では終わらなくて、ふと赤おにくんが青おにくんはどうしているのか、と青おにくんの家に訪ねると、すでに青おにくんはおらず、赤おにくんに向けた「僕はしばらく旅に出ます。当分会うことはできないだろう。人間たちと仲良く暮らしてください」という内容の手紙が書いてある、というストーリーです。



松：ワークショップで参加する子供たちと一緒にオペラを創る心境は？

黒：子どもたちと一緒に舞台に立つことは初めてではないですけど、プロとしてどんな責任を持って舞台に立っているのか、ということはちゃんと見てもらえたら嬉しいなと思います。普段の生活で舞台の裏側って行く事がないじゃないですか。僕も全然そんな舞台の裏側なんて行ったことがなかったので…。あまり気負わずにたくさんこの環境に触れてほしいなと思います。

松：幅広い年齢層の方々が来場されると思うのですが、この作品でどのようなことを伝えたいですか？

黒：相手のことを理解するというのは現代社会で生きていてもすごく大事なかなと思います。SNS等でしか知らない人は実際の姿が見えないですし。相手のことを理解しないで「おには怖いやつ」と決めつけることの怖さは、やはり感じてほしいかな。僕は泣いた赤おにの最後、赤おにくんが「青おにくんごめんね。僕が悪かった」と言うところは色んな考え方があるなと思っていて。赤おにくんの望みはある意味叶ったわけですが、最終的に青おにくんを失ってしまいます。青おにくんの住んでいた家や居場所から彼を去らせることになってしまった行いはすごく悔やんでいる終わり方だけれど、赤おにくんがそれによって人間たちと一緒に暮らしていく望みを得られたのは一つ大事なことだと思います。青おにくんは友人のために今の生活を一旦捨てて、新しい自分に向っていくことで友人の望みを叶え、多分青おにくんはそれで満足でそこに後悔はないと思うんです。一言では言い表せられない友情、友人関係とか、色々と感じてほしいかなと思います。



松：『泣いた赤おに』から少し話が変わるのですが、オペラとの出会いは何でしたか？

黒：小学1年生の時に観た『キャンディード』ですかね。日本語での公演だったんですけど、フレーズや歌詞、音楽を1回聴いただけで覚えてしまい、学校で1週間くらいずっと歌っていた記憶があって。当時から音楽はすごい好きだったんだなと思います。

松：最後に、オペラ『泣いた赤おに』の見どころをお願いします。

黒：赤おに役と青おに役の見た目の違いは楽しみに見ていてほしい部分ですかね。赤おには小柄でがっしり、僕は背が高くスラッとしていて、二人が並ぶとコントラストが面白いんですよ。あとはオペラって西洋から来た文化のものだし、取っ付きにくさがあると思いますが、こういう風に日本語で作られた素敵な作品がたくさんあるので、歌い手の日本語の歌唱というものを、すごく楽しみに聴いてほしいかなと思います。



黒田 祐貴（くろだ ゆうき）バリトン KURODA Yuki, Baritone

東京藝術大学卒業、同大学院修了。伊・キジアーナ音楽院でディプロマを取得。さらに独・カールスルーエにて研鑽を積む。第87回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞（聴衆賞）受賞。兵庫芸文『メリー・ウィドウ』ダニロ、日生劇場『セヴィリアの理髪師』フィガロの他、25年にはびわ湖ホール『死の都』フランク、静岡音楽館AOI『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、神奈川フィル『ラインの黄金』ドンナー等出演。バッハ「ロ短調ミサ」、ウォルトン「ベルシャザールの饗宴」等コンサート・ソリストとしても活躍。ドイツリートにも積極的に取り組んでいる。25年11月二期会『こうもり』ファルケにて出演予定。二期会会員

◆編集後記◆

最初は緊張していましたが、とても気さくにお話ししてくださり安心しました。「相手を理解することの大切さ」や「決めつけないこと」という言葉が強く心に残っています。青おにくんが手紙を置いていった場面には、様々な受け取り方がある事も知ることが出来ました。

ぜひ立川で上演される、深い友情が描かれたオペラ『泣いた赤おに』を観にきてください！そして、日本で作られたオペラならではの、日本語の響きを楽しんでいただけたら嬉しいです。

松田麻那